

事務事業評価シート 平成 28 年度事後評価・決算

平成 30 年 2 月 22 日時点

事務事業名			コード	40700	青年の家管理費	予算科目	会計	一般	款	10	項	4	目	5	事業種別	社会教育施設
基本施策			12		生涯学習の充実	根拠法令	旭市青年の家の設置及び管理に関する条例、同条例施行規則								☒ 主な事業	
施策の展開			24		生涯学習関連施設の充実	戦略事業	125 各施設の整備充実								☐ 国土強靱化地域計画	
施策の展開						戦略事業									☐ 新市建設計画	
															☐ 定住自立圏構想	
															☐ 主要事業	

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 昭和 47 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで	条例上は青少年健全育成のための施設だが、実情は生涯学習の中核的な施設として、教育文化の向上及び団体生活を通じての健全な育成を図ることを中心に施設を使用している。開館時間は午前9時～午後9時までで、休館日は毎週月曜日（月曜日が祝休日の場合は、その翌日）と祝休日、並びに年末年始となっている。登録団体としてはダンス・柔道・大正琴等の20団体が活動を行っている。また、築40年を経過した施設であるため、施設の運営に関して、修繕等の維持管理が負担増となっている。
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化
常に新しい知識や技術の習得に取り組み、自らの生活を充実させるような学習機会を、青少年等に提供することを目的に開始した。	築40年を経過した施設であり、耐用年数を過ぎて使用している。その為、青年の家を廃止する話も出ている。そのような状況の中で、現在の利用者が安心して施設を使えるよう必要な維持・修繕を行っていく必要がある。
⑤ 事務事業に対する住民からの意見等	
登録団体から、今後の青年の家について廃止の方向とこのことだが、サークル活動を引き続き行いたいので活動場所の確保等の考慮をしてほしいとの意見が出ている。	

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(28年度の決算)		単位	千円	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(予算)
1.臨時雇賃金	1,950	臨時雇賃金、労災等保険料	千円	2,196	2,415	1,902	1,950	2,218
2.需用費	2,970	消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料	千円	3,587	3,605	2,676	2,970	2,519
3.役務費	377	通信運搬費、手数料、保険料	千円	334	361	379	377	405
4.委託費	2,321	受付業務委託、警備委託、清掃委託等	千円	2,239	2,277	2,288	2,321	2,407
5.その他	46	NHK、事務機器賃借料	千円	476	93	102	46	56
② 特定財源の内訳(28年度の決算)		単位	千円	事業費計(A)	千円	8,832	8,751	7,347
1.国庫支出金	0	1.国庫支出金	千円				7,664	7,605
2.都道府県支出金	0	2.都道府県支出金	千円					
3.地方債	0	3.地方債	千円					
4.その他	915	青年の家使用料、光熱水費等利用者負担分	千円	390	562	1,020	915	726
			千円	8,442	8,189	6,327	6,749	6,879

前年度増減理由	・緊急を要する施設修繕が増加したため。
---------	---------------------

従事職員数	常時	1人	最大	人	×	日	=	延べ	0人
-------	----	----	----	---	---	---	---	----	----

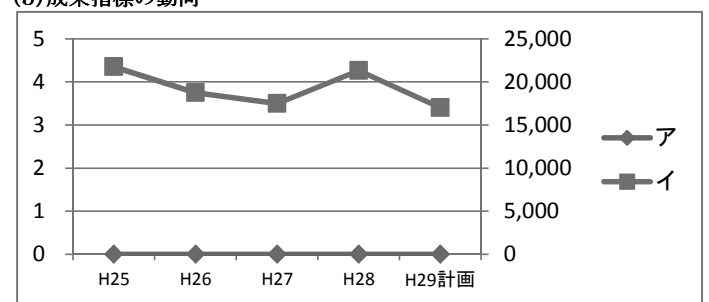
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	⇒	③ 活動指標名	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
	28年度実績(28年度に行った主な活動) 貸館業務 青年の家フェスティバル、奉仕作業 施設の維持管理(正面玄関自動ドア修繕・配水管バルブ修繕等)		ア 修繕件数	件	9	5	5	7	5
			イ 貸館件数	件	1,523	1,463	1,478	1,324	1,220
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	⇒	④ 成果指標名	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
	対象 ・市民 ・登録団体 意図 ・安全に利用できる状態にする		ア 施設に関する苦情件数	件	0	0	0	0	0
	対象意図		イ 延べ利用者数	人	21,768	18,756	17,504	21,328	17,000

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果		② コスト削減優先度評価結果	
施策貢献度	成果向上余地	評価結果	コスト比率
	かなりある ある程度ある ほとんどない		下位 1/3 中位 1/3 上位 1/3
大きい		①	
普通		②	
		③	
小さい		④⑤	
		⑥	
		⑦⑧	(7)
		⑨	

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

評価内容	① 進捗状況	② 成果の状況	③ 今年度取組事項
	☐ 完了 ☐ 順調 ☒ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難	成果指標ア 成果指標イ 成果指標のタイプ 数値減＝成果向上 ☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下 数値増＝成果向上 ☒ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下	時期 H29年度中 内容 個別施設計画の策定に向け準備を行う ・耐用年数を超過してしまっている施設があるため、まずは個別計画の策定を行い、計画に沿った取組を行っていく。今年度は個別計画を策定するためのデータ収集、取りまとめを行う。
【コメント】 (停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)	・青年の家を定期的に利用している登録団体の一つが会員の高齢化に伴い解散しているが、その他は例年通りの活動を行っている。青年の家の詳細な展望はまだ決まっていないが、施設の老朽化が著しく、利用団体の活動拡大は困難。		
【コメント】 (低下の場合、その理由)	・施設に対して、安全面で苦情は出ていないが、老朽化が著しい施設であるため、必要不可欠な修繕が増加している。		
比較	24年度 25年度	25年度 26年度	26年度 27年度
ア	0	0	0
イ	△2,095	△3,012	△1,252
28年度	3,824	△4,328	
29計画			
今後の方向性	☐ 拡大 ☒ 縮小 ☐ 現状維持 ☐ 廃止・休止 ☐ 見直し ☐ その他()		
平成30年3月31日	施設の展望が現時点で不透明だが、施設の老朽化もあり、段階的な施設利用の制限を行っていく必要がある。		